

パリ・左岸 深夜の客

初沢 克利著



「パリ・左岸 深夜の客」より(写真/初沢克利)

「街路や建物よりも、生活の内容の変化」がパリという街そのものの、その息吹を変えてしまふと著者は言う。1972年から10年間、パリ・モンパルナスに住んだ著者が、その地の「カフェ・セレクト」で撮影した65点を収めた写真集。午前2時まで明かりが途絶えることがなかった、23年創業のこの店で、恋人たちは艶やかな時間を過ごし、女優は孤独を抱きしめ、ある男は絵を描き続けた。酔いと言葉と音楽の混じり合ったざわめきが、紫煙とともにモノクロの作品から立ち上る。(立案舎、3960円)

文庫

■原田マハ著「ギフト」 仕事ができる同僚が退社すると聞き、内心安堵(あんど)していた「私」だが、「雨上がりの花」。学生時代に同じ男性を好きになった親友から結婚パーティーの招待状が届いて、「(コスモス畑を横切って)」20話の掌編と短編1話を収録。(ポプラ文庫、682円) ■藤水名子著「古来稀なる大目付」 70歳を過ぎてても精悍(せいけん)な顔つきの三郎兵衛は、將軍吉宗から諸大名を監察する大目付になるよう命を受ける。目安箱に届いた常陸の小藩に対する誹謗(ひぼう)の中傷が気に掛かるという吉宗の意向で、早速調べを進めるが…。書き下ろし時代小説のシリーズ第一弾。(二見時代小説文庫、724円) ■森岡督行著「荒野の古本屋」 大学卒業後、職に就かず、散歩と読書にふけりながらその日暮(ひぐらし)をし

松村 由利子 (歌人) 本紙書評委員

英語独習法

今井むつみ著

日本人が苦手な冠詞。英語話者に、電柱に衝突した車の動画を「the broken headlight(壊れたヘッドライト)」を見たかと尋ねると、実際は壊れてなかったのに多くが「見た」と答えてしまっている。本書は認知心理学で「スキーマ」と呼ぶ「枠組みとなる知識」を知る必要性を説く。「類義語を知らなければその単語のほんとうの意味がわかったことにはならない」とも。その単語を取り



まうという。「the」を使うことで「壊れたヘッドライト」があったでしょ、見た？」とのニュアンスになり、思わず反応してしまうようだ。言葉には、身体に埋め込まれた意味のシステムが付随する。本書は認知心理学で「スキーマ」と呼ぶ「枠組みとなる知識」を知る必要性を説く。「類義語を知らなければその単語のほんとうの意味がわかったことにはならない」とも。その単語を取り

羽田 詩津子 (翻訳家)

新刊

ドン・キホーテのスペイン社会史 岩根 国和著

名著「ドンキホーテ」には偽作があった。著者セルバンテスが後編を執筆中に、ある謎の人物が先んじて「後編」を出してしまったのだ。もともと中世の騎士物語のパロディー色濃厚な原作に、さらなるパロディーがあるという次第。この偽作も含め作品の背景となった16〜17世

恋するサル

黒鳥 英俊著

約40年にわたり、動物園で飼育員として、ゴリラ、チンパンジー、オランウータンなどと過ごしてきた著者が、これまでの飼育員生活の中で印象的だったエピソードと共に、類人猿の魅力を伝える。仲間のゴリラが死に、残されたゴリラの心のケアのためにテ

築地本願寺の経営学

安永 雄彦著

銀行員から会社経営を経て、僧になった著者は東京の築地本願寺の宗務長に就任する。挑んだのは老舗寺院のリブランド化。古代インド様式の本堂をランドマークとして際立たせ、18品の朝食を提供。それまでの宗派を問わない合同墓を設置して人生のコンシェルジュを

1950年、山口県生まれ。CMディレクターなどを経て81年に作家デビュー。「受け月」で直木賞、「ころころ」で吉川英治文学賞、「ノボさん」で司馬遼太郎賞。「大人の流儀」シリーズなどのエッセイでも知られる。2016年に紫綬褒章。

ればあるほど、最も戸惑っているのは英雄当人だと、僕は(作家の)城山三郎さんに教わったんです。將軍にさえ牙をむく非凡さ、豪胆さ。一生活者としての優しさ、弱さ。二つが同居する人物像は、どこか捉えどころがないからこりアルだ。昨年一月にくも膜下出血で救急搬送され、一時執筆活動を休んでいた。「人はいともたやすく死ぬものである。そして、いともたやすく生き延びるものでもある」と感

- 丸善日本橋店調べ (宇佐見りん著、河出書房新社) 読めば心が熱くなる365人の仕事の教科書 (藤尾秀昭監修、致知出版社) 『資本論』 (斎藤幸平著、集英社) 『来予測』 (成毛真著、日経BP社) 『覇する破壊的企業』 (山本康正著、SBクリエイティブ) 『エル・トッドの思考地図』 (エマニュエル・トッド著、大野舞訳、筑摩書房) (アンデシュ・ハンセン著、久山葉子訳、新潮社) 『すべてが『加速』する世界に備えよ』 (ダイヤモンド、ステイブ・コトラー著、ニュースピックス) (西條奈加著、集英社) (クーリエ・ジャポン編、講談社)

委員 敬称略 秀彦 (国立天文台准教授・普及室長) 新井文月 (現代アーティスト) 岡 真理 (京大大学院教授、現代アラブ文学・パレスチナ問題)

小松由佳 (写真家) 坂野 晶 (一般社団法人ゼロ・ウェスト・ジャパン理事) 鈴木球子 (信州大助教、フランス文学・西洋哲学)

瀬畑 源 (龍谷大准教授、日本近現代史) 千野貴裕 (早稲田大准教授、政治思想史・政治理論) 藤野可織 (作家) 松村由利子 (歌人)